２０２５年（令和７年）１１月１９日　水曜日

デーリー東北１２面　掲載

八学大 決勝逃す

青学大に2―8

明治神宮野球大会

明治神宮野球大会第5日は18日、神宮球場で大学の部の準決勝を行い、八学大（東北）は前回王者の青学大（東都）に2―8で敗れ、初の決勝進出はならなかった。

八学大は初回、加納史也の本塁打と大賀光雲の適時二塁打で2点を先制した。

だが、二回に相手先頭打者に二塁打を放たれると、2本の適時打に失策も絡んで3点を奪われ、逆転を許した。

さらに1点を追加されて迎えた四回。3番手で前の回から登板した高橋正吾が相手打線につかまり、2点本塁打を浴びるなど4失点。五回以降は打線も安打1本と沈黙し、追い上げられなかった。

準決勝のもう1試合は立命大（関西2）が名城大（愛知・東海・北陸）を1―0で下した。決勝は19日に行われる。

（福田駿、岸山浩之）

【大学】

▽準決勝

青学大（東都）　03140000　8

八戸学院大（東北）　20000000　2

（青）鈴木、渡辺―渡部

（八）小倉、加藤、高橋、伊藤

▽本塁打　初谷（青）加納（八）

阿部―織笠

名城大（愛知・東海・北陸）　00000000　0

立命大（関西2）　00010000×　1

（名）池田、妹尾、大嶽、天野―大橋、前田、谷

（立）高橋、芝本、若田部、有馬―西野

【準決勝・青学大―八学大】4回青学大2死二塁、2点本塁打を浴び、うなだれる八学大の高橋正吾（手前）＝神宮球場

焦点

王者に逆転許し完敗

初の決勝進出を懸け、青学大とぶつかった八学大。初回に本塁打などで2点を先制する幸先の良い立ち上がりとなったが、その後は硬さも出て、連覇を狙う王者に大敗した。新沼舘貴志監督は「最高のムードで始まったが、2点取ったことで『いけるぞ』という意識が余計に出てしまった」と肩を落とした。

二回、先発の小倉圭梧が相手の先頭打者に初球を捉えられ、右翼線への二塁打を許した。新沼舘監督が「雰囲気が変わるのは長打だと思っていた」と語る通り、その後は守備のミスにもつけ込まれて一気に青学大の流れに。地力の差を見せつけられた。

初回に勢いがあった打線は二回以降、立ち直った相手の先発投手に苦戦。今夏、大学日本代表に選ばれた右腕の低めにコントロールされた球に手を焼いた。抑え投手も攻略できず、試合を通して5安打に抑えられ、五回以降は三塁を踏むことができなかった。

ただ、春季は北東北リーグで2位に終わったチームが、18年ぶりに明治神宮大会で4強入りを果たすなど、シーズンを通して確かな成長も遂げた。

十鳥真乙主将は「（結果に）悔いはない」と言い切り「これからまだまだ壁を越えていってほしい」と後輩たちに悲願を託した。

（福田駿、岸山浩之）

【準決勝・青学大―八学大】初回、先制のソロ本塁打を放ち、雄叫びを上げる八学大の加納史也（右）

デーリー東北新聞社提供